

分別・リサイクルの今後の方向性（中間報告）について

日頃から、分別・リサイクルの取組にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
横浜市では、現在の分別ルールが一定程度定着していることをふまえ、今後の施策の方向性を検討するため、昨年 12 月に横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会へ諮問しました。

この度、これまでの議論をもとに、中間報告が取りまとめられました。

今後、自治会・町内会の皆様のご意見をいただきながら、ヨコハマ 3 R 夢プランの推進に向けた施策を検討してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

<中間報告の概要>

1 検討の視点

- 市民の皆様の理解と協力が得られるよう、十分考慮しながら、検討を進める必要がある。
- リサイクルに要している費用のあり方を検討する必要がある。
- リサイクルによる燃やすごみ量の削減や最終処分場の延命化などの効果、リサイクル技術の進展などをふまえた検討をする必要がある。

2 現在の取組について検討すべきこと

- 現在、リサイクルを行っている、缶・びん・ペットボトルやプラスチック製容器包装などの処理を今後どのように行っていくのか、改めて検討する必要がある。
- 製品プラスチックやせん定枝などについて、リサイクルによる活用ができないか、検討する必要がある。
- 現在の分別品目について、「誰もが負担なく分別に取り組める」という視点から、必要に応じて見直しを行う必要がある。

3 検討に際して考慮すべきこと

- 老朽化が進んでいる処理施設や資源物回収場所のあり方について、検討する必要がある。
- 地域の意欲とアイデアによるリサイクルの取組が進むよう、検討する必要がある。
- 外国人住民の方々へ分別ルールを理解してもらうための取組や、高齢・障害等によりごみの分別が困難な方への支援について、検討する必要がある。
- 最大の政令指定都市としてリーダーシップを発揮した国等への働きかけや、リサイクル文化の醸成、市内経済の活性化なども、検討すべき大切なテーマである。